

緒言

日本興業株式會社は明治三十年の創立に屬し、本社工場を靜岡縣浜松市に置き、横浜、釧路、分工場も有る本邦唯一の製器製造會社であるが、本年四月職工は日本労働組合評議會會派松合同労働組合を組織し、待遇改善要求を述べたるに、會社は評議會を目して共産党ありと断り、自家の見地より之を徹底的糾弾を決意し職工側が評議會と絶縁せざる以上は断りて要求不應せりと強硬なる態度を始終一貫忠敬守し、これに對し組合側は會社は共産党の悪名の下に労働者の團結権蹂躪、生存権無視を敢てするのありと、その錯誤を難し、同盟罷業を以て對抗すること實に百五日間、本會の調停により漸く解決を告げたるが、その間の幾多の波瀾は社會の耳目を驚動せしむるに充分であつた。

今爭議永續の主要なる原因を察すれば

(1) 社長が強き信念を所有者にして評議會の準拠する思想を危険視し、日

本主義を基調とする見解が之を徹底的排撃を決意し、経済的利害關係を全く顧慮せざりしこと。

- (2) 評議會の所謂技術的洗練
- (3) 職工の技術的倚賴の強固ありしこと、生計に比較的餘裕のありしこと、及び父子兄弟同業たる親族的關係が單獨行動を許さざりしこと。
- (4) 労働同志會、相愛會等の行動が爭議團の結束を刺戟したること。
- (5) 社長と政治的の反目する市内有力者が陰に爭議團に同情的態度を取り

等も数へる事が出来やう。

以下爭議の概要を録して其の真相を明らしたると思ふ。

一、概況

會社側

所在地 靜岡縣浜松市中澤町二五。